

コロナ禍での混乱から新たな日常への変化：消費ビッグデータで記録する2年間

小西葉子（経済産業研究所）、齋藤 敬（経済産業研究所）
金井 肇（株式会社インテージ）、伊藝 直哉（株式会社インテージリサーチ）
水村純一（ジーエフケー マーケティングサービス ジャパン株式会社）
志賀恭子（株式会社 Zaim）、末安慶太（株式会社 Zaim）、濱口凌輔（株式会社 Zaim）

要　旨

コロナ禍で私たちの日常生活は、食事も、学びも、仕事も、余暇も大きく変化した。日本は感染拡大の5つの波と3回の緊急事態宣言を経験したが、諸外国に見られるような強制的なロックダウン、行動規制、マスク着用の義務がないなか、この危機に対処してきた。その対処の多くが私たちの日常生活の中での行動変容である。本稿では、当初の混乱、適応期、新たな日常への変化を「消費ビッグデータ」によって観察する。分析には、2020年1月から2021年12月の2年間の全国のスーパー・マーケット、コンビニエンスストア、ホームセンター、ドラッグストア、家電量販店のPOSデータと、家計簿アプリデータを用いる。POSデータで品目レベルの販売動向、家計簿アプリデータでサービス支出の動向とキャッシュレス決済の普及を観察した。これによりコロナ禍での消費行動を包括的に記録することが可能となった。

キーワード：COVID-19、POS（Point of Sales）データ、家計簿アプリデータ、消費動向、キャッシュレス決済

JEL classification: D12, I11, I18, H12